

データサイエンス学部 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検及び評価（2024年度）

プログラムの履修・修得状況

2024年度もデータサイエンス学部全学生を対象に本プログラムを必修として実施した。以下のように、各科目における履修者・修得者の状況を確認した。

- | | |
|--------------------|--------------|
| ・成蹊基礎演習 1 | ：履修59名／修得57名 |
| ・プログラミング基礎 | ：履修55名／修得49名 |
| ・統計学 1 | ：履修63名／修得60名 |
| ・データサイエンス概論 | ：履修61名／修得55名 |
| ・データマイニング基礎 | ：履修58名／修得51名 |
| ・計算機概論 1 | ：履修64名／修得52名 |
| ・未来クリエーションプロジェクト 1 | ：履修55名／修得53名 |
| ・未来クリエーションプロジェクト 2 | ：履修63名／修得57名 |

2024年度は履修者数79名であり、そのうち7科目すべてを修得した学生は59名であった（2023年度からの単位積上修得者を含む）。LMSの活用により、学生ごとの進捗状況と課題提出状況を的確に把握している。

学修成果

各科目において、課題提出時に自由記述欄を設けて講義に関する学生のコメントを収集し、「全学的なAI・数理・データサイエンス教育の構築プロジェクト」と連携して評価・改善に活用している。また、FD活動の一環として受講生への授業アンケートを実施し、その結果を担当教員にフィードバックしている。

学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

授業アンケートの結果を通じて、学生がどの部分でつまづいたか、どのような説明や具体例が有効であったかを分析し、講義改善に役立てている。

学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

本プログラムは必修であるため、学生から他学生への推奨行動を促す仕組みは設けていないが、授業満足度は高く、学生同士の情報共有によって学習意欲が維持・向上していると見られる。アンケート結果は履修指導にも活用している。

全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

当プログラムはデータサイエンス学部の学生を対象とするものであるため、全学的履修者数の拡大については対象外である。

教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

2024年度時点では修了者がまだ卒業に至っていないため、該当なし。

産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

連携企業からのフィードバックを得るため、アンケート等を通じて授業内容や演習手法に対する意見を収集している。また「全学的なAI・数理・データサイエンス教育の構築プロジェクト」を通じて改善に取り組んでいる。

数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

モデルカリキュラム応用基礎レベルに対応し、時事やトレンドを取り入れた講義を展開することで、学生の関心を高めている。授業評価をもとに題材の見直しを行い、好奇心を刺激する授業設計に努めている。

内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

授業アンケート結果を分析し、講義内容や実施方法の改善を継続している。各担当教員が「分かりやすさ」の観点から授業改善に取り組んでいる。